

第4回
全国生涯学習
フェスティバル
in みやぎ

3才から91才までの まなびすつによるコンサート

『森—望—翔』

去る11月3日(火)、イズミティ21大ホールに於いて、文部省、宮城県など地方自治体主催第4回全国生涯学習フェスティバルinみやぎの協賛イベントとして、当協会主催の「3才から91才までのまなびすつによるコンサート」が開催された。通称「まなびピア」の愛称で親しまれている生涯学習フェスティバルは、今年で千葉・京都・大分について第4回目となり、10月31日(土)からの5日間、仙台市・気仙沼市・白石市・蔵王町などで開催され、102万人の参加者を集めた。

当協会では、今年も10月31日(土)の開会式の音楽協力を行い、鈴木英子正会員が校長を務めておられる東北音楽学校幼稚科園児他、前田千枝子正会員の紹介による数々の合唱団による演奏、シエナ・ウインドオーケストラの演奏が行なわれ、各界の大好評を得た。

また、当協会主催のコンサートのプロデュースは、おなじみ福田靖子専務理事、指揮・編曲は宮城教育大学教官の石川浩先生、音楽相談役は宮城県芸術家協会副会長で作曲家の片岡良和先生。ヤマハ株式会社をはじめ、多くの方々の協賛を得ることが出来、又、委員長の鈴木英子先生をはじめとする、日下洋美・小林美智子・鈴木園子・鈴木良子・高橋京子・高橋光子・平間百合子・前田千枝子・柳万まり子(敬称略・五十音順)の第4回全国生涯学習フェスティバルin宮城に関する委員の皆様のご活躍により、このコンサートは成功したといえよう。

第1部「森」、第2部「望」、第3部「翔」とテーマを決め、それにちなんだ曲を選んだ。メインタイトル通り3才から91才までのまなびすつと約250名の出演者が参加し、合唱あり、アンサンブルあり、ピアノソロありと盛り沢山の内容になった。

中でも第3部の「翔」は片岡良和先生作曲の「雄飛」が大きな話題をよんだ。この「雄飛」は伊達政宗、支倉常長ら遣欧使節がローマを目指した船「サン・ファン・パウティスタ号」の旅を題材にした壮大な管弦楽曲。原曲は、管弦楽、バリトン、テノール独唱、語り、合唱による1時間45分もの大曲。今回は前述の石川浩先生の編曲でクラビノーバ6台とピアノ2台、テノール、バス、語りという編成で演奏され、雄大で荘厳な雰囲気が会場に溢れた。

以下に、このコンサートに参加された皆様から寄せられた感想文をご紹介します。また、今号の『わがまち・わが支部』の宮城支部も合わせてご覧頂きたい。



♥「まなびピアノにさんかして」

阿部 真生（9才）

ぼくは、まなびピアノにさんかして、「良いけいけんをしたな」と思いました。夏休みに練習を始めました。ひいた曲は、6人でひく「火星」です。ぼくたちがひき終わると、すばやく「木星」の人とこうたいします。10月に、初めてべつの人と合わせた時は、とてもきんちょうしました。4回目あたりからは、木星の人とも練習しましたが、やればやるほどワクワクしてきました。

本番前です。楽屋で待っていると、ついに出演です。ひく前は、顔がとても熱かったです。木星の人とこうたいする時も「楽譜を落とさないかな」など、いろいろ心配してしまいました。終わると今度は、ぼくがインタビューを受けました。思った事をありのままに言いました。終わった時は、とても安心してうれしかったです。

♥「まなびピアノ」にでて

神林 由美（10才）

私はとても大きな会場で、しかもたくさん人の前で演そうするのは初めてだったのでとてもきんちょうしていました。また、「クラビノーバ」は今回初めてひく楽器だったし、他の先生の生徒さんたちといっしょなので、「うまくあうかな。ましがえ

なくちゃんとひけるかな。」と不安なこともありましたが、でも、練習をとおして友達もできたし、ふだんの練習曲とはちがった感じの曲をひけたのはとてもうれしかったし、よい経験だったと思います。

♥まなびピアノinみやぎに参加して

佐藤 佳苗（11才）

“まなびピアノinみやぎ”の「わく星」の中の木星を1カ月とちょっと前から練習を始めました。はじめのうちは、何回もまちがえました。でも、2週間くらいすると、とくになれるほどのきになってきました。そして、みんなで合わせる時、ちょっとまちがえることがあったけど、何度も合わせていくうちに、だんだんうまくいくようになりました。

会場の“イズミティ21”に着いた

ときは、「イズミティでひけるなんてすごいな。」と思いましたが、一緒に参加したみんなの様子を見ていたら、はりきっているように見えました。お弁当をいただいてから、客席に入って、他の人達の演奏を聞きました。そして、私達の出演が近づいてきて、わくわくしたり、ドキドキしてきました。

そして本番。みんながステージのそでに入りました。12人でひく曲、「わく星」が始まりました。火星の人がひき終わって私達がひき始めました。ひき終わってほっとしました。

“まなびピアノ”に出て、初めて6人そろってひきました。クラビノーバは初めての経験で、ふだんピアノで練習しているのでちょっとひきづらかったけど、大きな会場でひけて、とても良い思い出になりました。





♥平間 百合子

“まなびピアノ”で貴重な勉強をさせていただき心から感謝申し上げます。実行委員として第3部を企画させて頂きましたが「実現はむずかしい」との周囲の声の中、何とか本番までこぎつけましたのも多くの先生方の御力はもちろんのこと、「不可能を可能にする」福田先生のパワーが仙台まで届いたのではと思っております。

片岡先生の「雄飛」という作品との出会い…国立音大在学中に高田三郎先生の御指導の元読んだ、遠藤周作の「沈黙」という作品との出会い…「沈黙」の中の主人公“侍”こと支倉常長の渡航先での仙台出身の主人との出会い…すべての出会いが“まなびピアノ”でひとつの糸をたぐるように思い出され、人生はめぐり会ひのくり返しのロンドのような気がいたしております。

第2部企画の高野先生からは、小さい方々のステージとお声をかけて頂き、ついホイホイとちびちゃん達と私までステージにのぼらせて頂き、冷汗をかきつつ、全員これからのよりいっそうの勉強を心に誓っております。

PTNAの皆様に感謝し、ますますのご発展をお祈り申し上げますと同時に、仙台におきましてのPTNAの活動ももっと実力あるものとし、又、在仙の才能豊かな音楽家達にもPTNAの存在を知って頂き、輪を広げなくては、ごく一部の小さな世界に終り、広く世界へ目と心を向け

た活動には遠くなってしまうものと気を引き締めております。

♥平間 小百合（6才）

まなびピアノでピアノをひけて、とてもうれしかったです。さおりちゃんたちと、3才のころひいていた、なつかしいきょくをひきました。パーティーのとき、ふくだせんせいとしゃんがとりたかったです。どうもありがとうございました。

♥永富 さおり（3才）

このあいだのピアノ、わたしががんばりました。みんなもがんばりました。もっともっとじょうずになります。まってるね！

♥大江 香織（5才）

とってものしかかったです。もっともっとじょうずにひけるようがんばります。

♥高本 えりか（7才）

わたしは、まなびピアノのコンサートですごくきんちょうしたけど、がんばりました。コンサートがおわってから、パーティーに行きました。パーティーにいて、マナビのにんぎょうをもらいました。わたしがもらったとき、もうちょっとでなくなりそうでした。わたしは来年はコンクールにでてみたいです。

♥高橋 りさ（17才）

第4回全国生涯学習フェスティバル in みやぎに参加させて頂き、本当

にありがとうございました。私はこのようなフェスティバルに参加するのは初めてであり、4人で連弾するということも初めての体験だったので、とても緊張しました。4人それぞれが忙しく、なかなか合わせる事ができなかったのが、本当に本番までに完成できるのだろうか、と心配な面もありましたが、無事に終わることができてとてもうれしく思っています。

みんなで何かを作り上げるには、一人一人の「心」が結びつかなければなりません。今回のこのフェスティバルは、まさしくみんなの「心」が団結したと思います。これからもピアノを続け、心豊かな生活を送りたいと思います。

♥高本 欣子

先日のまなびピアノのコンサートでは、私共の娘に参加する機会を設けて下さって誠に有難うございました。ピアノを始めて半年くらいで、あのような立派なステージに立つことができた娘は「これからもピアノ頑張る!!」ととても感激しております。これもひとえに福田先生はじめ諸先生方のご努力のおかげと感謝いたしております。

また、パーティー会場で先生のおっしゃった宮城のピアノを学ぶ者への激励のお言葉にとっても感銘を受けました。これからも平間先生のご指導の元に、娘共々頑張ってみたく存じます。



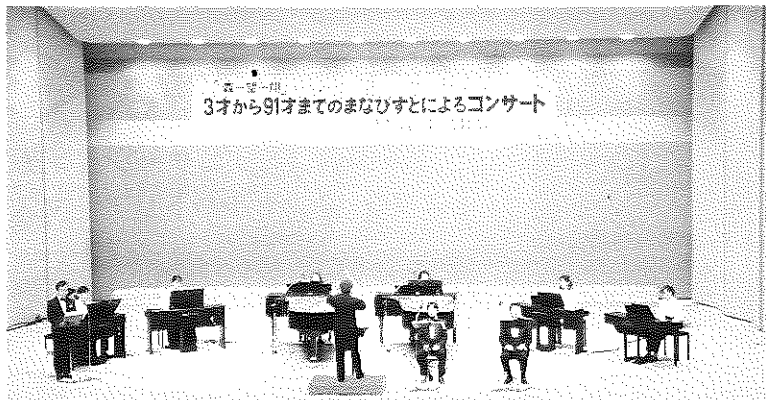
♥「第4回全国生涯学習フェスティバルinみやぎ」 高橋 京子

この度生涯学習フェスティバルに関する委員会の一員として参加させていただきました。体調をくずしてレッスンを休んだり、入院したりした中で、十分に活動できなくて本部の皆様はじめ委員会の皆様大変ご迷惑をおかけ致しました。

6台のクラピノバによる火星、2台のピアノによる8手連弾、ドボルザークのスラブ舞曲。子供たちと共に出演できました事、大変うれしく存じております。10月から音合わせ。練習時間が少なかったにもかかわらず、充実した内容での練習。楽器を提供下さったヤマハ㈱、練習会場を提供下さった㈱三立と、各方面からのご支援のおかげで本番に臨むことができました。

本番の出来はいろいろとご批評頂きましたが、私にとっては本番に至るまでのプロセスが大切だと思いました。1000名を越える聴衆を前にした大ステージで演奏する機会のない子供たち(まなびすと)の満足した笑顔にふれて、参加させてよかった、という思いがいっぱいで、まだ火星のメロディがびんびん耳に響いてきます。リハーサルから終了まで本部の皆様が、仙台までいらして下さって、ご準備夜おそくまでなされていたお姿に心打たれました。本当にありがとうございました。

▶第3部「雄飛」より



♥前田 千枝子

全国生涯学習フェスティバルでは、思いがけず、開会式の合唱を手懸けさせて頂き、本当にありがとうございました。たくさん得るものがあり、余韻まだ冷めず——の感があります。

以前から子供からお年寄りまでの大合唱を夢見、どこかで誰かがするならば、一番に駆け付けようと思っはいましたが、自分が先になって人集めをするとは考えてもいない事でした。幸いにも、合唱指揮者の研究会に入っていたので、その関係から20代が主の男声合唱団歴史ある混声合唱団、あとは友人・知人・生徒あらゆる合唱好きの方達に助けて頂く事ができたのです。あっという間に70名を越えました。2才10カ月の最年少のいる一家6人はお友達です。最高齢者の90才の方は、やはりお友達(先輩というべきですが)のお母

様でした。私の夢を実現してくれたのは、みんな友達でした。たった数分の演奏に、前日のリハーサル、当日も朝9:00から、文句も言わず協力して頂きました。

また、まなびすとコンサートでは、実行委員として十分に働かせて頂きましたのは、第1部をご一緒させて頂いた、東北音楽学校の先生方のおかげだといえます。また生徒さん達とのふれあいも楽しいものでした。合唱は、いいえ、音楽は人の心をつにつにします。今回は特にそれを感じました。何ものにもかえられない貴重な仲間、友人、生徒に恵まれ、ますます合唱音楽にのめり込みそうです。しかし、ピアノ指導者としてもまた、研鑽を積み、怠らずにせねばと心新たにしています。先生がおっしゃられたこと、肝に銘じ、精進してまいりたいと思います。

